

2022年度（令和4年度）幼稚園評価自己評価表

最終更新日 2023年（令和5年）3月30日

園番 20 福山市立 あけぼの 幼稚園

1 幼稚園教育目標

明るくたくましく、心豊かに友だちとともに伸びゆく子どもを育てる

2 目指す自園の幼稚園像（ビジョン）

○やさしさあふれるあけぼの幼稚園  
 ～小学校以降の生活や学習の基盤としての「生きる力」の基礎を育成する～  
 ・友だちと元気に遊び、つながりの大切さを学ぶ子ども  
 ・幼児の学びを支え、小学校への基礎・基本となる力を育てる教師  
 ・たがいのよさを生かし高め合い、地域・幼稚園と協力して子育てをする保護者  
 ・豊かな感動体験、健やかな成長につながる教育環境

3 目指す幼児像

あ あかるく  
 け 元気に  
 ほ ほのほのやさしく  
 の のびる子ども

4 自園の現状分析（地域環境・園の環境・幼児観・保護者、地域との連携協力・現状課題など）

4歳児で入園する幼児のうち、初めて集団生活を経験する幼児が7割、兄弟姉妹がいる幼児が7割いる。人と関わることに抵抗がない幼児がいる一方、食事や衣服の着脱、排泄の自立など基本的な生活習慣の定着に大きな差が見られる。5歳児はほとんどが進級児ということもあり友達とのかわりも徐々に増えてきている。個別の支援が必要な幼児が6割おり、療育施設と並行通園を行っている。  
 少子化・核家族化等の社会状況の変化や遊びの変化（家庭での遊びは携帯ゲームや動画を見る）により、特定の人との関わりが主で様々な人と関わる機会や思い切り体を動かして遊ぶ体験や感動する実体験が少ない。  
 コミュニケーションについては、大人と個別に関わることはできても子ども同士の関わりが苦手だったり遊びが続きにくかったりするなどの実態がある。  
 保護者は、幼稚園教育に対して理解があり協力的である。中には、わが子にどのように関わったらよいか、子育ての不安や悩みを持たれている方もいる。  
 このような状況から、園児には二年間の教育課程を通して、発達に即した生活の自立、意欲的に取り組みやり遂げようとする態度、ルールを守って生活したりする社会性、コミュニケーション力などが育つように取り組んでいくことが必要であると考え教育目標を設定した。

5 今年度の重点目標と設定理由（ビジョン実現のために）

重点目標	設定理由
○ 基本的な生活習慣を確立する ○ 主体的に活動する子どもの育成	・家庭の状況や幼児の特性等により基本的な生活習慣が定着していない幼児がいる。家庭との信頼関係のなかで、基本的な生活習慣を確立し、幼児が心身ともに健康に育つ基盤を作りたいため。 ・幼児が自ら興味関心をもってかわり、「おもしろい」「不思議だな」と感じるなど心動かす体験をすることで探究心が育ち、主体的に活動するようになってほしいため。

	3年間の目標	1年間の目標	具体的な方策	評価	評価結果
					○＝反省や課題 ◎＝改善のための方策
生きる力の基礎	自立心を育て、人と関わる力を育てる	○日常生活に必要な生活習慣を身に付ける。 ・おはようのあいさつをする (年長：自分から言う80%以上 年少：相手の顔を見て言う80%以上)	○職員は毎日9割以上の幼児に挨拶をしたり声をかけたりする。	A	年長90% 年少87% ○自分から挨拶をする子どもが増えた。 ◎引き続き笑顔で気持ちの良い挨拶を心がけていく。
	体験したことや考えを自分なりのことばで表現したり、聞いたりを育てる。	○年長：自分の考えを相手に伝えるように話す。(80%以上) ○年少：聞かれたことに対して、自分なりに答える。(80%以上)	○年長児は、人前で話す機会や小グループでの活動を意図的に取り入れる。 ○年少児は、同年齢のペアで活動することを意図的に取り入れる。	A	年長85% 年少80% ○相手に伝えるように話すことが難しい場面もあるが、自信を持って発表する子どもが増えた。 ○ペアでの手遊びやゲームを取り入れた。会話をする機会が増えたことで自分なりに答えるようになった。
		○絵本や紙芝居に興味をもって聞く。(90%以上)	○絵本や紙芝居などは、季節や幼児の興味や発達段階を考慮して選定する。	B	年長85% 年少93% ○季節や子どもの興味に合わせた内容のものを選定した。 ◎興味の持てる読み方や選定内容をこれからも充実していく
	さまざまな動きを楽しむしなやかな体づくりをする。	○外遊びが好きになる。(保護者アンケート90%以上)	○発達に応じた活動(運動あそび)を年間計画を基に実施する。 ○毎月のねらいをもとに室内外で自ら体を動かして遊ぶ事の出来る環境を工夫する	A	年長90% 年少100% ○発達に応じた遊びを工夫してくことでその子なりの活動への参加が見られた。 ◎身体を動かしたくなるような環境や教材研究をしていく。
	食生活を通して食事や自分の体に関心をもつ。	○苦手な物も食べることができる。(85%以上)	○農園活動を季節ごとに行い、学期に1回以上栽培物を調理する ○食育活動を学年ごとに行い保護者啓発する	B	年長90% 年少87% ○コロナ感染症防止のため、野菜の収穫はできたが調理はできなかった。苦手なものも一口は食べる子どもが増えている ◎食に興味をもてるよう話をし保護者にも啓発していく。
教師の役割	一人一人の幼児の特性を理解し、発達段階に応じて個に対応した教育を行うとともに、小学校への円滑な接続を図る	○幼児理解研修を行い、一人一人の特性を把握し、指導にあたる	○「ことばの相談室で遊ぼう」を年6回実施する。(各学期各学年1回) ○年間計画を基に園内研修を計画的に行う。 ○職員会議などで気づきを積極的に発言したり、助言を求めたりする。	A	○園内研修を計画的に行うことで保育の見直しや子どもの育ちに気付く機会となった。 ◎計画通りに行かないこともあるが、日頃の会話や振り返りの時間での連携も大切にしていく。
信頼される幼稚園	○安全な教育を持続させる		○毎月1日を安全点検日にして点検を行い、環境を整える。	A	◎安全に過ごせるよう全員で意識していく。複数人で確認する月を設けていく。
	保護者との信頼関係を築き、お互いの役割を果たしながら、親と子がともに育つ幼稚園を目指す	○保護者アンケートで「先生は子どもの成長を評価し伸ばしてくれている」「幼稚園の先生に子どものことについて気軽に話ができる」の肯定的評価を80%以上にする。	○幼稚園だより・クラスだより・HPを月1回以上発行・更新する。 ○子どもの育ちが伝わる内容にする。	A	アンケートでの肯定的評価100% ◎月1回は発行することができた。わかりやすく楽しみにしてもらえよう、写真を掲載するとともに育ちが伝わるように工夫していきたい。
		○保護者、地域のひとと共に子育ての楽しさを共有できるよう工夫する	○未就園児の会を計画的に実施し、遊びの場の提供と子育て相談を行う。	A	○毎月10組以上の親子の参加がある。相談室利用者の参加も多く子育て支援に繋がっていると感じる。

【評価】 Aー達成した Bーほぼ達成する Cーじゅうぶん達成していない Dー達成していない 【生きる力の基礎】 — 健康・人間関係・環境・言葉・表現

【教師の役割】 計画的な環境構成・活動場面における教師の役割・人材育成 【信頼される幼稚園】 情報提供・他の公共機関との連携・幼児と地域住民との人間関係づくり・教育相談